

東日本大震災から3年 全旅連・東北6県幹部座談会

国民を守る宿づくりも

全旅連で10万人の

被災者受け入れを決断

——震災発生時の状況とその後、被災者の受け入れは行なってきたか。

佐藤(勤) 3月11日は東京

池袋にある宮城県のアンテナショップに出張していた。2泊3日の出張で、3月13日に秋保に戻って、15軒の組合員の旅館をまわった。各旅館の社長は従業員を解雇しており、もう駄目だという、なげやりな中にも明るさがあったのを覚えている。行政のおかげで状況は変わっ

災害時には国民を守る旅館に

佐藤 信幸氏
(山形)

を持った。義援金もうれしかったが、実定を運んで、目に見える形で支援していただいて、なんとかしよという気持ちに繋がった。

中村 青森県は宮城、岩手、

福島に比べると津波の被害は少なかつたが、ライフラインがほとんど止まり、直後は大変だった。2011年は青森県にとって特別な年で、東北新幹線開業とデスティネーションキャンペーン(DC)に備え、5年ほど前から官民あげて受け入れ態勢を整えていた。12月4日の開業から3カ月後、オアシスンにもかわる。宿泊客の前年比40%増と順調だった。3・11以降は、自粛ムードや



全国からの支援に感謝の気持ちを語る各氏

東日本大震災発生から3年を迎える。全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会(全旅連)の東北6県の理事長、専務理事にお集まりいただき、これまで各方面から寄せられた支援に対する感謝の気持ちや、これからの東北観光の展望と災害時に旅館が果たすべき役割を語り合ってもらった。司会は本社東北支局長・平塚真喜雄。(ホテルメトロポリタン仙台で)

子ども客が戻ることが真の復興

小井戸 英典氏
(福島)

交通障害(風評被害)発生した。県の旅館組合では、停滞ムードを払拭するために「旅の力で東北復興 おもてなし宣言」を動画共有サービスYouTubeや新聞広告などで発表し、青森県の宿泊施設は元気で訴え発信した。

DCのスタートは4月23日に決まっていたが、開催されることになったのは18日だった。福島、宮城、岩手の方々の了解や理解を得てようやく決定した。

29日に東北新幹線の開引き運転が始まった。桜が満開の弘前公園にJR東日本会長の清野賢二氏や三村伸吉青森知事が一同に集まって、復興宣言とDC開催のセレモニーを行った。清野会長も、三村知事も被災地、被災者のみなさんに想いを馳せて涙ながらに語られた。

その後DCは、日帰り客も含め入り込み客数は前年と同数、宿泊は前年比30%減だった。普通DCは前年比の2倍になる。残念な結果に終わったが、DCがなかったらもっと少なかっただろう。

澤田 3月11日、東京の日野市観光協会から「新撰組」のイベントに招待されていたので盛岡から新幹線に乗っていた。花巻市の鉄橋にさしかかった時、ガタンガタンと大きな上下振動があり新幹線は止まった。すぐにトイレや暖房が使えなくなり、車内で寒さと空腹に耐えながら一晩過ごした。宮古に帰れたのは3日後だった。ホテルはフロント、厨房、ボイラー室など一階全部に泥水が入っており、従業員が掻き出していた。それから家族とともにホテルに宿泊した。

従業員を2人亡くし、35人の従業員と泥水を掻き出す毎日の中、非常に悩んだが従業員を解雇しない決断をした。

私が被災したので今井副理事長に理事長職務代理者をお願いし、早速内陸部の旅館・ホテルで被災者の受け入れをはじめた。

佐藤(信) 3月11日は東京にいて、2日間動けず13日に新潟経由で山形に帰った。新潟の野澤幸司理事長から「2004

風評の提供などを行った。その後、原発事故の収束に携わる東電関連の企業や警察の方々からの宿泊要請が相次ぎ、受け入れながら回復した。

普野理事長をはじめとする執行部と事務局の動きは速かった。震災直後から被害状況を収集し、4月にはいち早く原子力損害賠償や風評被害訴訟を専門とする原子力被害対策委員会を立ち上げ、知事や各庁へ、復興担当大臣、国会・県議員へ風評被害及び観光振興対策を要望、東京電力への賠償交渉に当たった。

間もなく2次避難者の受け入れが始まり、原子力損害賠償紛争審査会の現状報告、観光庁との意見交換会、組合員へ損害賠償請求や施設の復旧整備補助事業などの説明会、2次避難者受入施設現状復旧事業などに取り組んだ。

4・8月までの各県の被災者受け入れ数は、佐藤(勤) 宮城県は4月が不明で5・8月までで約18万3千人。秋保温泉だけで7万8千人だった。1カ月風評が入ってないという方々が多かった。秋保はお湯だけはあったのでかけ流し100%の温泉に入ってもよかった。

松村 秋田は約9万7千人。佐藤(信) 山形は約9万4千人。澤田 岩手は約17万6千人を内陸部の花巻温泉を中心に受け入れた。

中村 青森は約9千人。小井戸 福島は受け入れ宿泊施設数が705軒、非組合員を含むで、341万5千人。

佐藤(勤) 復興に携わる方々がいなくて県の再生はないと県から直接聞いていたので、料金を決めず、福島と同じように泊まってもらった。

ただ阪神・淡路大震災のときは、警察、ガスなど復旧部隊の方々はJTBが手数料なしで統一料金でやっていた。今回がバラバラの料金で参入していた。それだから混乱してしまった。阪神・淡路の経験を生かせるなかったのは非常に残念だったと思う。

東北巡るゴールデンルートを

松村 譲裕氏
(秋田)

秋田県旅館ホテル生活衛生同業組合

たくさんのご支援ありがとうございます
東北は“こころ♥”をひとつに頑張ります！

〒010-0921 秋田市大町1丁目3-8 三井生命秋田ビル4F
TEL 018-823-7775 FAX 018-823-7776

福島県旅館ホテル生活衛生同業組合

理事長 菅 野 豊

事務所 〒960-8035 福島市本町4-17 (岩瀬ビル2F)
TEL 024-521-1448 FAX 024-522-3941
URL <http://www.fukushimaryokan.com>

岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合

数多くのご支援を賜り、心より感謝申し上げます

理事長 澤田 克司
副理事長 今井 洋一
副理事長 久保田 浩基
専務理事 太田代 洋一郎

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-14-31
TEL 019-622-7214 FAX 019-622-7226

山の向こうの、もう一つの日本
やまがたの旅路は、朝ごはんにはじまる。

地域の歴史・伝統・文化に根ざしたおかずとともに、
山形のおいしいお米を味わってください

山形デスティネーションキャンペーン
平成26年6月14日～9月13日

山形県旅館ホテル生活衛生同業組合
やまがた朝ごはんプロジェクト

青森県旅館ホテル生活衛生同業組合

理事長 中村嘉宏

〒030-0802 青森市本町2-3-4 (青森旅館会館内)
TEL.017-777-3411 FAX.017-734-4631

宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合

理事長 佐藤 勘三郎

仙台市若林区新寺二丁目1番1号901
(サンシャイン菊平ビル)

TEL.022-298-8933
<http://www.miyagi-yado.gr.jp/>
Email:info@miyagi-yado.gr.jp

